消　　防　　費

・消防費

常　備　消　防　費　　総 務 課

(1) 乙訓消防組合

乙訓消防組合に対し、分担金を負担した。　　378,551,000 円

非　常　備　消　防　費　　総 務 課

(1) 消防団は郷土愛護の精神に基づき、あらゆる災害に対処するため、団長以下一致団結し、防火防災活動を行った。

事　　業　　名	実施年月日	参加者数	場　　所
初級団員教養訓練	R7.5.18	30 人	大山崎消防署名神高速道路高架下訓練場
大山崎町水防訓練	R7.6.1	37 人	大山崎町大山崎五畝割地内
普通救命講習	R7.7.27	8 人	大山崎消防署訓練体育室
団本部計画訓練	R8.8.31	27 人	大山崎小学校グラウンド
幹部教養訓練	R7.10.19	23 人	大山崎消防署名神高速道路高架下訓練場
活性化事業	R7.10.19	14 人	キョーイチアミューズメントパーク吉祥院
秋の火災予防運動に伴う広報パトロール	R7.11.9～15　7日間	延べ41 人	大山崎町管内
大山崎町総合防災訓練	R7.11.16	15 人	第二大山崎小学校グラウンド
年末特別警戒	R7.12.25～30　6日間	延べ171 人	大山崎町管内(各分団詰所)
大山崎町消防出初式	R8.1.11	37 人	大山崎町体育館
京都府消防大会	R8.2.22	16 人	国立京都国際会館
乙訓二市一町総合消防訓練	R8.3.1	28 人	桂川河川敷公園
春の火災予防運動に伴う広報パトロール	R8.3.1～6　6日間	延べ34 人	大山崎町管内

(2) 消防団は火災予防にも積極的に取り組むとともに、府立消防学校に団員を派遣し、各種の教育を実施した。

また、研修のため管外へも団員を派遣し、情報収集や見聞を広め、団員の資質向上に努めた。

○京都府立消防学校派遣研修			
消防団員幹部教育初級幹部科	1日	2人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
消防団員専科教育警防科	1日	2人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程	1日	2人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
○消防団員幹部管外視察研修	2日	6人	東京都
○京都府消防協会乙訓支部管外研修	2日	3人	徳島県、兵庫県

(3) その他

消防団は、毎月自主訓練を行っているほか、消防車両を常時出動可能な状態にしておくため機関点検を行う等、万一の災害に備えている。

消　防　施　設　費　　総 務 課

(1) 水道事業会計負担金　　3,636,000 円

消火栓等維持費　　公設水利の維持管理費用

消火栓	245箇所	}	303箇所×1,000円×12ヶ月
防火水そう	58箇所		

水　　防　　費　　総 務 課

(1) 水防出動に備え、水防活動に必要な資器材を購入した。

水防活動用資器材(土のう袋、災害対応用砂他)　　172,006 円

(2) 桂川・小畑川水防事務組合

京都市・長岡京市・大山崎町で構成する水防事務組合の負担金　　326,000 円

水防事務組合水防訓練　訓練日:R7.5.10　場所:淀川右岸淀大橋下流河川敷

〈資料1〉 火災概要（過去3年間）

区分＼年別		令和5年	令和6年	令和7年	昨年との比較増（減▲）
火災件数	計	8	5	5	0
	建物	4	2	4	2
	車両	3	2	0	▲2
	林野	0	0	0	0
	その他	1	1	1	0
建物焼損床面積（㎡）		88	144	0	▲144
建物焼損表面積（㎡）		13	45	1	▲44
林野焼損面積（ａ）		0	0	0	0
焼損棟数	全焼	1	2	0	▲2
	半焼	0	0	0	0
	部分焼	1	2	0	▲2
	ぼや	2	3	4	1
り災人員		5	10	8	▲2
り災世帯	全損	1	1	0	▲1
	半損	0	0	0	0
	小損	7	3	3	0

※大山崎町管内分　　（乙訓消防組合統計より）

区分＼年別		令和5年	令和6年	令和7年	昨年との比較増(減▲)
死傷者	死者	0	0	0	0
	負傷者	0	1	0	▲1
損害額（千円）		34,949	27,951	23	▲27,928
主な火災原因	たばこ	1	1	1	0
	こんろ	0	0	0	0
	火入れ	0	0	0	0
	たき火	0	0	0	0
	火あそび	0	0	0	0
	こたつ	0	0	0	0
	電気機器	0	0	2	2
	配線器具	0	0	0	0
	放火・放火の疑い	0	0	0	0
	その他	7	3	2	▲1
	不明	0	1	0	▲1
	計	8	5	5	0

※大山崎町管内分

（乙訓消防組合統計より）

〈資料2〉 救急活動概要（過去3年間）

区分＼年別		令和5年	令和6年	令和7年	昨年との比較増（減▲）
出動件数		1,459	1,406	1,366	▲40
取扱件数		1,343	1,338	1,267	▲71
事故別	交通事故	103	79	87	8
	急病	903	958	874	▲84
	一般	257	217	236	19
	その他	196	152	169	17
救護人員		1,359	1,345	1,278	▲67

事故別の出動状況をみると急病が874件と最も多く、全体の約 64%を占めた。　（乙訓消防組合統計より）

大山崎消防署が出動した件数で、町外への出動を含む。

〈資料3〉 消防団の出動状況（令和7年度中）

区分＼種別		計	災害出動				演習・訓練	広報活動	研修・会議	機関点検	特別警戒	その他
			火災	うち林野	捜索活動	風水害等の災害						
消防団	出動回数	93	0	0	0	0	7	12	18	34	9	13
	出動延人員	930	0	0	0	0	164	75	78	284	151	178

消防団員は、火災、その他の災害による被害を最小限にとどめるため、専門知識の習得、技術の練磨を重ねた。

災　害　対　策　費　　総 務 課

1. 災害対策（警戒）本部設置状況

各種気象警報等の発表・被害の発生に伴い、災害対策（警戒）本部を計2回設置した。

設 置 日	事 象	避難情報など
令和7年7月11日 （金）	7月11日19時44分　大雨警報（浸水害）発表　災害警戒本部設置 7月11日21時17分　大雨警報（浸水害）解除　・災害警戒本部閉鎖	
令和8年2月8日 （日）	2月8日4時25分　大雪警報発表　災害警戒本部設置 2月8日15時57分　大雪警報解除　・災害警戒本部閉鎖	

2. 防災パトロール

大山崎町地域防災計画に基づき、出水期を迎えるにあたり、災害時に危険が予想される箇所の総点検を実施し、防災上必要な対策を検討し、万全を期すことを目的に実施した。

○実施日：令和7年5月22日（木）　　○参加者数：27名

○パトロール箇所：大山崎排水ポンプ場、早稲田急傾斜地

3. 自主防災組織の支援

自主防災組織の活動を支援するため、自主防災活動補助金とコミュニティ助成事業補助金を支出した。

○自主防災活動補助金：362,318円（計7団体）

○コミュニティ助成事業補助金：1,395,436円（計7団体）

4. 防災訓練

円明寺地域住民を対象に災害発生時の避難所への避難行動から、避難所での初期対応訓練を行うことで、基本的な避難の行動を身に着けて頂くことに加え、全町民を対象に防災フェア（関係機関によるブース、講演会、展示訓練）を行うことで住民の「自助」「共助」の意識向上と、地域防災力の認識の向上を目指すことを目的とするもの。

○主催：大山崎町防災会議

○日時：令和7年11月16日（日） 9時00分～12時30分

○場所：第二大山崎小学校

○想定状況：令和7年11月16日（日）午前8時30分、前週から続く長雨により、京都府及び京都地方気象台は大山崎町に土砂災害警戒情報（警戒レベル4）を発表。
これを踏まえて、大山崎町災害対策本部は、町内の土砂災害危険地域（円明寺地区の土砂災害（特別）警戒区域等指定箇所周辺）に避難指示を発令。

○参加機関：乙訓消防組合（大山崎消防署）、京都府警、関西電力送配電㈱、大阪ガスネットワーク㈱、NTT西日本㈱、大山崎町災害ボランティアセンター、
日本防災士会京都府支部、、大山崎町消防団、大山崎町防災士の会、日本公衆電話会、スカイセッター㈱、㈱ミヨシ

○内容：地域住民の避難行動訓練、防災フェア（各関係機関による展示や備蓄食料配布など）、日本防災士会京都支部の田中顧問による防災講演会、
自衛隊・大山崎町自主防災組織連絡協議会による炊き出し訓練

5. 防災資機材等の整備

備蓄用の液体ミルクを調達し避難所に配備した。

6. 防災啓発の実施

○出前講座：防災に関する出前講座を計2回実施し、約19名の方が受講した。

○広報：4月号から12回にわたり「広報おおやまざき」に防災記事を掲載し、住民の防災意識の高揚を図った。

○防災備蓄食料の有効活用：水や食料などの備蓄の必要性を考えていただくため、保健センターに賞味期限前の備蓄食料を提供した。